依田林業新聞

発行所

（有）依田林業
塩山事務所
総務部

初心に戻り基本動作の徹底を！

「初心忘れるべからず」このことわざ聞いたことがない人はほとんどいないでしょう。“初めた時の新鮮で謙虚な気持ち、志を忘れてはいけない“との解釈が一般的だと思います。しかしこのことわざ、ルーツをたどるとそんなに生易しい意味ではないそうです。

このことわざのオリジネーターは、室町時代に能を大成させた“世阿弥”であるそうです。芸の未熟さを表したことわざのようです。

初心とは、「始めた頃の気持ちや志」ではなく、「初心者の頃のみっともなさ」だそうです。あの惨めな状態には戻りたくないと思う事で更に精進できるであろうということです。

何の仕事でもそうですが、仕事に慣れるのではなく、危険に慣れてしまうこと、今まで大丈夫だったから今日も大丈夫だ。この考えが事故を招きます。いつも初心を忘れない事！守れない人は、山仕事に従事すべきではないでしょう。特に機械作業は自分だけでなく仲間の命にも関わってきます。

安全第一！無事に過ごせる人にのみ「名人」の称号が与えられるでしょう。

朝の打ち合わせ時、作業確認と共に基本動作の確認をしていきましょう！

スマート林業とは？

林業界で注目されている「スマート林業」。最新のテクノロジーを駆使して業界を活性化させるとして全国的に導入が勧められています。林業を IT 化することによって、何が変わるのか調べてみました。

就業者が激減した林業において、少ない人材を「次世代の林業の担い手」として育成し、IT 技術を駆使して森林管理を「可視化」することにより、安全面でもコスト面でも多角的に効率のいい経営ができる取り組みが出来ます。例えば、以前は日数を要した森林の現地調査などは、ドローンを使って森林を空撮することができ、樹木の種類や育成状況、伐採状況などの情報を短時間で収集出来る上に、すぐにデーター化も可能。ドローンと一緒に、地理情報システムを活用することにより、どの森林でどのような伐採率となるかが判明すれば、それに割り当てる人材も掲載することが出来るので、人員的なコスト削減にも役立ちます。「未来の林業の在り方」を考えた際に、とてもメリットがあります。IT 化を進めるには一筋縄ではいきませんが、従事者の意識レベルから変えることで林業の未来も明るくなることでしょう。

今月の一言

山は山を必要としないが、
人は人を必要とする。

新年号「令和」

30年余り続いた平成に代わる新元号が、4月1日公表されました。生活習慣が欧米化して久しく、国内外で広く普及している西暦が暮らしに浸透している現在、日本人が世界で唯一、元号を使い続ける意義とは何なのでしょうか。元号は、古代中国が起源とされ、「皇帝は時間をも支配する」という考えに根ざしている。天皇の権威を高めるために用いられたみたいですが、それだけではなく、平和や人々の幸福を願うという意味合いもあるそうです。大化から248を数える元号の数は新たな時代がより良いものになるように、との日本人の願いの数なのかもしれません。

「令和」の意味は、万葉集の梅の花の歌「時に初春の令月、気淑く風和ぐ」から取ったものだそうです。日本の平和が続きますように・・・